

D50

ドクター
メジター
子ル
井上喜久治述

トラホーム一席話

附トラホーム豫防の歌

268
448

今や國民病たるトラホーム豫防撲滅の聲は到る所に起り當局者は汲
 として其策を講じ學者は其病原の發見治療法の研究に日も亦足ら
 ざる有様なり従つて之に關する著書幾十種なるを知らず然れ共我
 國民たる小學生徒及其家庭にトラホームの智識を授け兩者相俟
 して其豫防を完成し得べき說明書を見ず余素より著者の器にあらざ
 るに茲に一小冊子を綴る内容は極めて簡単に字句亦平易ならん事を勉
 む小學生五六年生以上は讀んで自ら理解し得べく以下の生徒は父兄に
 讀み聞かせらるれば其意を解するに難からざるべし殊に困難なる豫
 防法の實行を一の習慣となし得ば不知不識終日の舉動は衛生の定規
 に適合すべく其記憶し易からんが爲めに歌となして添加せり又父兄
 の採つて讀まれるれば家庭に於けるトラホーム智識の普及となるべし
 幸に其目的に副ひトラホームに關する智識普及と豫防の一助となり
 ば著者の榮とするところなり

明治四十四年夏病床に於て

著者しるす

44.10.19
 44.10.19

目次

一トラホームはどんな病氣でしよう……………五頁

二トラホームからどんな餘病が起るでしよう……………十頁

三トラホームは治らないでしようか……………十二頁

四トラホームの原因は何でしよう……………十三頁

五どんな風に傳染るでしよう……………十五頁

六どうすればトラホームを豫防するここが出来
るでしよう……………十七頁

七どうすれば各自の身は安全でしよう……………十九頁

八家庭ではどんな注意をすればよいでしよう……………二十五頁

九もしトラホームに罹つたらごんな注意が必要

二十八頁

でしよう………二十九頁

十公衆衛生上の注意はごうでしよう

附 録

トラホーム豫防の歌

トラホーム一席話

京都府立醫學專門學校講師 井上喜久治述
同附屬病院眼科部長

トラホーム一席話

皆さんもよく聞いて居られるトラホームとは西洋の名
前ではあるが之が通稱になつて居るから却て其まゝの
方が解りよいサテ其トラホームは誠に傳染りやすい眼
病で我邦にも昔からあつたので色々の名前がある又ハ
ヤリ目といったものの中には此トラホームが多く含ま
れて居るのです今でも北國の方に行くコカズノ目
いふ處がある此カズノ目とは實に甘い言葉でトラホ

ームのようだいをいひつくして居る即眼瞼結膜がさらさら丁度カズノコの様になりそれから色々な害を起すのである。昔からあつたトラホームをなぜ近年になつてから矢釜しく云ふのかと疑ふ人もあろうが近年になつては交通が便利になつて昔の人の考へも付かなかつた陸には瀛車が走り海には瀛船が浮び又空には飛行機が飛ぶ様になつた斯様な世の進歩で西も東も實に近い心地がする。従つてトラホームにかゝつて居る東京の人が長崎に行き長崎の人が仙臺に旅する支那や朝鮮は愚か西洋の人が日本に來り日本人がアメリカにいつたり往來が追々はげしくなるため病氣も漸々に廣がるの

である、こういつて見れば近年になつて蔓延が甚い全國到る處にトラホーム患者があるといつても不思議はあるまい。

現今其トラホームは徴兵検査では百人中四十人もある處がある。地方によりて多少の相違はあつても大体に於て非常に多い小學校では多い處は百人中七十人から八十人もある少い所で十人位のものである實に恐しい數ではあるまいか従つて此トラホームのために盲目

となつてあはれな生活をするものも少くない。健康な身體に健康な精神が宿るこいふことは誰も聞て居ることで實に金言である幾ら活動きたくとも體が

丈夫でなければ思ふ様には出来ぬ體が丈夫でもまた眼の悪い爲めに活動の大部分をさかるゝことも少くない皆様も知らるゝ通り蓋世の英雄ナポレオン第一世でさへも埃及征伐のときは兵隊の大部分が此トラホームにかゝつた爲めに非常に苦んだ例がある生命に危険がないと云つて決して等閑にすべきものではない殊に第二國民たる學校に此病の多い事は實に嘆はしいことである此處は皆さんの奮發で大にトラホーム軍を退けねばならぬ西洋人はトラホームは文明國にはない非文明國の附物であるといふ何と情けない言葉ではあるまいか。さりごとて實際西洋の文明國にはトラホームは珍ら

しい位のものである我邦も開けてからまだ僅かに五十年足らず此過渡時代に於ける批評は仕方もないが今の小學生徒たる第二の日本國民は獨り自分の爲めのみでなく國の爲め文明の爲めに大に注意して頂きたい。

一 トラホームはどんな病氣でしよう

誠に傳染りやすく一度うつりたら非常に治り難くい眼病であるから壯丁者を侵しては兵役に堪へぬ様に貧民社會では爲めに糊口の道を失ひ學校では中途で教育を受けることの出来ぬ様になる場合が少くない實に恐ろしい病である。先づ二つに別けて御話した方が

解りやすい

一つは急性といつて俄に起るもの俗にハヤリ目ヤン目と云ふ眼病の一部分で眼瞼は少しく赤く腫れ眼球結膜は血走つて来て淡い膿の様な眼やにが澤山に出て羞明く涙がこぼれ眼の中に塵埃でも這入てる様にころころ痛んで眼は開きにくい様になる此時に眼瞼結膜を反轉して見るに例のカズノユの様に粟粒位の腫物が出来て居ることもある又少し後になつてから出来ることもあるが斯様な状態は水で洗つてよく冷して賣薬でもさせば一寸治つた様に思はれるけれどもこれは素人療治と云つてけつして治つて居るのではない病氣が慢性に

なつて来たのである誠に危険な療治であるから決して此素人療治に満足してはならぬ初め急性な時に醫者の適當な治療を受けて充分養生すれば左程重くならず治るものである。若し放つて置いたら角膜に浸潤が這入り潰瘍が出来或はパンヌスと云つて雲がかつて非常に視力の障害となりさうくおしまひには盲目になるものもあるから放つて置いてはならぬ。

次には慢性といつて長い間にぼつ／＼起つて来るものでトラホームの大多数は此慢性のものであるから患者自身でさへ知らぬ間に此トラホームに罹つて居ることも少くない。学校の體格検査にトラホームの注意さ

れて驚ひて醫者に診て貰ふのは此慢性のものである。斯様に知らぬ間に起つて來るので自分の氣のついた頃には大分進んで居るころがあるそれで眼が少し赤くなつても目やにが少し出ても眼科醫に診て貰ふがよい。此**トラホーム**の容態は目やにが出で或は眼がかすみ羞明して涙がこぼれ異物感があり又痒い様な氣持のするころもある一般に前のものよりは軽い様であるけれど中々治り難ひのである。此時に眼瞼を反して見るに誰にても見ゆる粟粒位の顆粒が出來て丁度カズノコの様になつて居る。たゞねをなになに甚くないにしても少しでも見へるのである。此顆粒がなければ**トラホーム**でないか

云へば又全く見ぬないのもある。大抵は二三週間も醫者に通へば眼やには出なくなり痒い様な感じも異物感もなくなくなる。サア治つた。醫者の言葉も聞かないで其まゝにしておく。又暫くで前の様になる。こんなころが度重ると容態はだん／＼重くなつて角膜には浸潤が入り潰瘍が出來。パンヌス。こいつて丁度簾を掛けた様なくもりが出來て終には盲目になるのである。何でも初め眼科醫から**トラホーム**である。と診断されたら假令日數は長くなつても醫者の言葉に従つて忍耐して治療を續ければ大した害を残さずに治るものであるから醫者のいふ通りにせねば後悔するころがあります。前にも云

つた様に眼瞼結膜に出来て居るトラホームの顆粒が取れない間は折々眼やに出たり異物感があつたりかすんだり到底治りきるものではない段々に病が進むに従つて顆粒は變化してなくなり遂には結膜の赤色がなくなり形が變つて来て蒼白色の滑澤な癍痕が残るが此時は其癍痕の爲めに眼には色々の障害が起る決して喜ぶべきことではない

ニ トラホームからどんな餘病が起るでしよう

どんなトラホームでも餘病を起すことはきまつて居ないが其病氣の初めに早く醫者の治療を受けなかつたも

のに多いのである即醫者の言葉を用ひなかつた罰であるといわねばならぬ又いくら治療を加へても性質の悪ひトラホームは餘病を起しやすい。餘病とは前にも云つた通りの角膜にはパンヌスと云ふ雲がかつてござうしても治り難ひ。しまいにはこれが爲めに視力が弱くなり盲目になることも少くない又角膜には浸潤潰瘍が出来て疼痛があり羞明く涙こぼれ非常に悪い容態になる。此時にも適當な治療をせねば取り返しつかぬ盲目になり一生不幸に泣かねばならぬこともある。又病が進んで結膜が變化して來ると睫毛倒生が起り其睫毛の先きで絶えず角膜をこするので眼が赤くなつたり浸

潤や潰瘍やパンヌスなごが起つて視力を悪くするのである若しも此睫毛倒生が起つたら少しの辛抱をして手術を受けた方が後のためにより決して等閑にしてはならぬ。

三 トラホームは治らないでしようか

非常に治りにくい病である前にも云つた様に治つたかと思ふて油断するに暫くで又起つて来る誠に治り難いものではあるが初めに眼科醫の治療を受ければ治るものである薬で治らねば手術の必要なこともあり一々書いても無益であるが要するに自分の信じた醫者の言

葉に従つて充分忍耐して養生すればよい。放つておいたり素人療治なごして取り返しのかね不幸に陥らぬ様注意するが肝要である。それよりは一層初めからトラホームに罹からぬ工夫するがよい。

四 トラホームの原因は何でしよう

トラホームはたやすく人から人に傳染るに及ぶ其傳染の基は眼やにて其中に病の原因となるべきものが含まれて居ることは確かであるが現今の進んだ醫學でもまだ其病源は何であるかたしかでないのは實に残念なことで世界の學者は鵜の目鷹の目で研究して居るの

である併し又一方には醫學進歩のお蔭で昔に信じられて居たトラホームは眼やにから傳染る外に不潔な空氣によつても起るものであると云ふ説は全く間違でトラホームの毒は其患者の眼やに涙によつてのみ傳染るものであると云ふことが明かになつた。

又トラホームは他の病氣と同じ様に體質の弱い人が罹りやすい又たこへ體質が丈夫であつても少しでも結膜が弱くなつて居るとトラホームは其弱味につけこんで來るのである。それで體質を丈夫にし常に結膜を健康にして置かねばならぬ。

五 どんな風に傳染るでしよ

前章にトラホームの毒はトラホームに罹つて居る人の眼やにのち含んで居ることを述べた即眼やにの多い時は最もよく傳染る時であるから充分注意せねばならぬ此トラホーム患者の眼やにがどうして健康者の眼に這入るのであるか其徑路を知らねばトラホームの豫防はさては出來ない。其傳染る方法は二つある一つは直接傳染と云つて病人の眼から直接に健康者の眼に眼やにが這入るものである西洋では親しい間では接吻をする習慣があるので割合に多からうけれど日

本ではそんな習慣はない只時折りに可愛い小児に頬ずりする位のことである其時にひよつと眼と眼が觸れるか眼の外に流れて居る眼やに健康者の眼について傳染るのであるこんなことは少ないからさて油断してはなりません

今一つは間接傳染といつて病人の眼眵が何處かについて居てそれから健康な人の眼に毒が這入るのであるこれがトラホーム傳染の大部分をなすもので大に注意せねばならぬ其媒介物となるものは非常に多いが數へて見れば手指、手洗水、手拭、ハンカチーフ、金盥衣服、蒲團、書物、文房具類、日用品、裁縫具、化粧道具な

ごである又浴湯などからも傳染るこれ等の媒介物によつて傳染るのであるから學校、兵營、育兒院、監獄、工場などの多人數集まるごころでは傳染ることが多く又貧民社會では常に不潔な生活をして同衾、雜居したり日用品の共用によつて傳染り易い其他官衙會社、集會所、停車場、髮店、浴場などの多數の多種類の人が出入する處では傳染る機會が多い

六 どうすればトラホームを豫防する

ここが出来るでしよう

前にも云つた様にトラホームは非文明國の附物の様

に云はれるが非文明國では一般に衛生思想が行き渡らないで社會全般が不潔であること云ふことである不潔であれば身體にも害があり又眼の養生と云ふことも出来ない例へば塵埃の多い不潔な空氣の中に光線の足らない所で生活すこ眼は絶へず害を受けて結膜炎などを起し従つてトラホームの毒は其弱味に付け込むで来るから傳染りやすい又トラホームの如何に凄慘なものであるか云ふことを知らぬから一向無頓着で益々ひろがつて行くのであるが皆さんは既にトラホームの害の恐るべきものであることも其トラホームが眼やによつて傳染ることも御承知のことなれば一般衛生に注意し

て自分の體を健康にし眼をば丈夫にすることに充分御注意になればトラホームを完全に豫防することが出来るのである吾々眼科醫は日々多數のトラホーム患者に近づいて居るけれど傳染らないのは常に衛生に注意して居るからで他に理由のあることではない。退屈であらうが之から述べる豫防法を讀んで實際にやつて頂きたい

七 どうすれば各自の身は安全でしよう

何もむづかしいとはない凡て身のまわりを清潔にすればよいのである毎日朝から晩までの行ひに氣を付け

て體や眼の爲めに悪いと思つたことをしないのである
こんなことは何でも無い只一つの習慣をつければよい
のである

第一 身體を清潔にする

身體が不潔であるとは何の病にでも罹りやすいもので
あるから湯にはいつて皮膚をよく洗ひ綺麗に洗濯した
た衣服を着ねばならぬたこへ破れて居ても洗濯した
衣服は垢付いた絹の衣服よりはよい殊に襦袢は汚れ
やすいから度々洗濯せねばならぬ、お湯に這入る時
は頭や顔は湯槽の中で洗つてはならぬ、上り湯かきれ
いな水で洗ふ習慣をつけねば飛んだ目にあふことが

ある又爪の間には垢がたまりやすいから常に短かく
剪んでよく掃除して病毒の巢窟をなくせねばならぬ

第二 眼と手先を清潔にする

毎朝きれいな水で手先をよく洗つてから顔と眼を
洗ひ。學校から歸れば手足と顔を直に洗ひ。又多人
數集まる所に行つた時も歸つてから顔と手足をよく
洗ふがよい。學校でも何處でも眼の摩擦りたい時
には手を洗つてからか或はきれいな手拭でさわるが
よい決して汚れた手でさわつてはならぬ

第三 自室を清潔にする

自分の勉強する室があれば毎朝戸を開け放して風通

りをよくし日光のよく這入る様になるべく塵埃のた
ぬ様にきれいに掃除せねばならぬ

第四 眼を過勞せぬ様にすること

夜は早く寝て朝は早く起るがよい、又薄暗いところ
や夕方などは讀書針仕事の様な細かいことをせぬが
眼のためである

第五 眼病者に近寄らぬこと

たごへトラホームでなくとも眼やにの出る患者には
近よらぬがよい學校でも内でも眼の悪い友だちと遊
んではならぬ又母か兄などがトラホームに罹つて居
る時に同じ蒲團に寝るのは傳染る恐れがあるから別

に寝るがよい出来るならば別室に寝る方が安全であ
る、又其患者の觸れたものは他の健康な人とは區別
せねばならぬ

第六 病毒の媒介物に注意すること

トラホームの毒は媒介物によつて傳染ることが最も
多いのである其最も恐ろしい媒介物は手拭である此
手拭はたごへ親子兄弟の間でも別にすることがよい殊に
學校生徒は綺麗に洗つてよく乾いた手拭を各自に持
つて居て決して貸借りしてはならぬたごへ一度の貸
借りでもトラホームの毒がついて居たら直に傳染る
のである其他學校でつかふ本や文具の類は貸しかり

してはならぬ又学校の手すりらんかなごには成るべく觸らぬ様に氣を付けるがよい
多人数のつかふ手洗鉢には手拭はないがよい又神社佛閣の手洗鉢には多数の手拭があるが決してさわらぬ様に又浴場理髪店の貸し手拭はつかわぬ様にせねばならぬ其他ハンカチーフ金盥夜具衣服書物文房具食器化粧道具裁縫具玩具などは各自別にして置かねばならぬ

第七

塵埃煤煙の眼に這入らぬ様にすること
これらのものには黴菌が付いて居ることがあり眼の結膜が弱くなつてトラホームの毒が這入つて來れば

非常に傳染りやすいから學校でも家でも成るべくありのたゝぬように氣を付けねばならぬ又風の吹く日の外出は成るべく止めた方がよい塵埃のたつ仕事をせねばならぬ時は眼鏡をかけるがよい。
斯う書くごめんごうの様であるからを終ひに附け加えて置いた歌を覺えて其通りにしてごらんさい一つの習慣ごなつてわけなくトラホームを防ぐとが出来る。

八 家庭ではどんな注意をすればよいでしょう

第一家の内外を清潔にし居室は毎朝開け放して新しき風を通し成るべく塵埃のたゝぬ様に掃除し日光の透

射を充分にせねばなりません

第二手洗鉢には常にきれいな水を充し毎日取りかへね

ばならぬ金盥は用済みの後はよく乾かし置き手拭は

平素から別に置いて置くがよい

第三夜具枕日用品は常に各自に定め置きて共用せぬ習

慣を付けて置かねば誰かがトラホームに罹つた時に

俄かに色々のものを區別し様として永い間の習慣

は中々變へにくいものである又親子兄弟の同衾は堅

く止めねばならぬ

第四子供の學校行きには必ず書物文具を忘れぬ様注意

し手拭は二つ以上拵へおきて毎日取りかへて必ず乾

いたのを持たせねばならぬ其他の外出にも手拭は持

たし度いものである浴場理髪店などの貸し手拭は借

りぬ様に注意するがよい

第五子供は體をきれいにすることを忘れやすいから風

呂に入るのを氣を付けねばならぬ時々散髪に行かし

たり爪を剪つてやるがよい。云ひ聞かした丈では中

々實行が出来ぬものである

第六雇人乳母子守の雇入れには眼病のない者を撰ばね

ば子供の最も近寄りやすいもの故知らぬ間に可愛い

子供に病のうつることは少くない初めに眼醫者に診

て貰へば安全である

九 もしトラホームに罹つたらどんな

注意が必要でしよう

不幸なところではあるが今更取り返しは付かないソユで病人自身は忍耐して治療を受け途中でやけを起してはならぬ、前には人の病毒に傳染らぬことの注意であつたが今度は自分の病毒を人に傳染さぬ様に氣をつけねばならぬ。

第一忍耐して治療を怠らぬこと

第二前の豫防法を一層堅く守ること

第三自分のことは成るべく自分でして人に手数をかけ

ぬよう又他人の品物には一切觸れぬこと

第四眠る時間を適度にし夜間の讀書細い仕事なごをせ

ぬこと

第五塵埃煤煙を避け多人數の集る場所にはなるべく行

かぬこと

第六家庭では豫防法に述べたことを堅く守り病人の觸

れたものは全く區別し病人をはげまして醫療を受け

さすること。

十 公衆衛生上の注意はどうかでしよう

之は中々困難な問題でまたお話する必要もない當局者

は及ぶおま丈夫だむ注意ちういして居ゐるのであるから此このことについては
當局者そのすぢのひとに任まかせた方がよいと思おもふ。

トラホーム豫防の歌(鳥はかあく)の譜

一末は盲目のトラホーム

廣がり易いトラホーム

防ぐ手段の數々を

之からいつしよに歌ひませう

二朝寢はなまけの初にて

體や目までわるくする

いつでも朝は早くおき

雀や鳥にまけぬよう

三寢床たたんでしまつたら

綺麗な水で顔も目も

手先も残らずよく洗ひ

爪も長くばお剪りなさい

四垢によくれぬ着物きて

きれいな手拭忘れずに

用意が出来たら元氣よく

急いで學校へ御出でなさい

五運動するにも遊ぶにも

煤や煙に近寄らず

成るべく塵をたてぬよう

氣をばつけねばなりませぬ

六毎日坐る教室の

自分の席を間違へず

本や筆紙手拭も

皆めいくに忘れぬよう

七たごへ一度の貸借も

病のうつるたねごなる

又目のわるい友だちと

遊ばぬことも忘れぬよう

八目をこすり度い事あらば

手をば洗つた其後か

腰の手拭こり出すか

二つの中を忘れぬよう

九稽古がすんで歸つたら

いつも手足をよく洗ひ

お風呂にはいつて體をば

きれいにするのも忘れぬよう

十頭と顔はお風呂場の

別にきれいな湯や水で

あがる前にはよく洗へ

病を防ぐ其ために

十一お宮お寺や散髪屋

さては風呂屋の手拭も

つかはぬ決心第一よ

病を防ぐ其ために

十二夜は寢床へ早く入り

明日の早起楽しみと

晝のつかれにぐうぐう

朝まで知らずにぐうぐう

268

448

發行所

京都市北小路新町西入

合資

弘文社

電話下二四一番



不許複製

明治四十四年十月廿日發行
明治四十四年十月七日印刷

著述者 井上喜久治

京都市下珠敷屋町
東洞院西入

發行者 西村重右衛門

京都市北小路新町
西入

印刷者 須磨勘兵衛

取次販賣所

京都市

井上書店

西村書店

寶文館

若林書店

河合書店

中澤書店

山中書店

松田書店

下村書店

清水書店

東枝書店

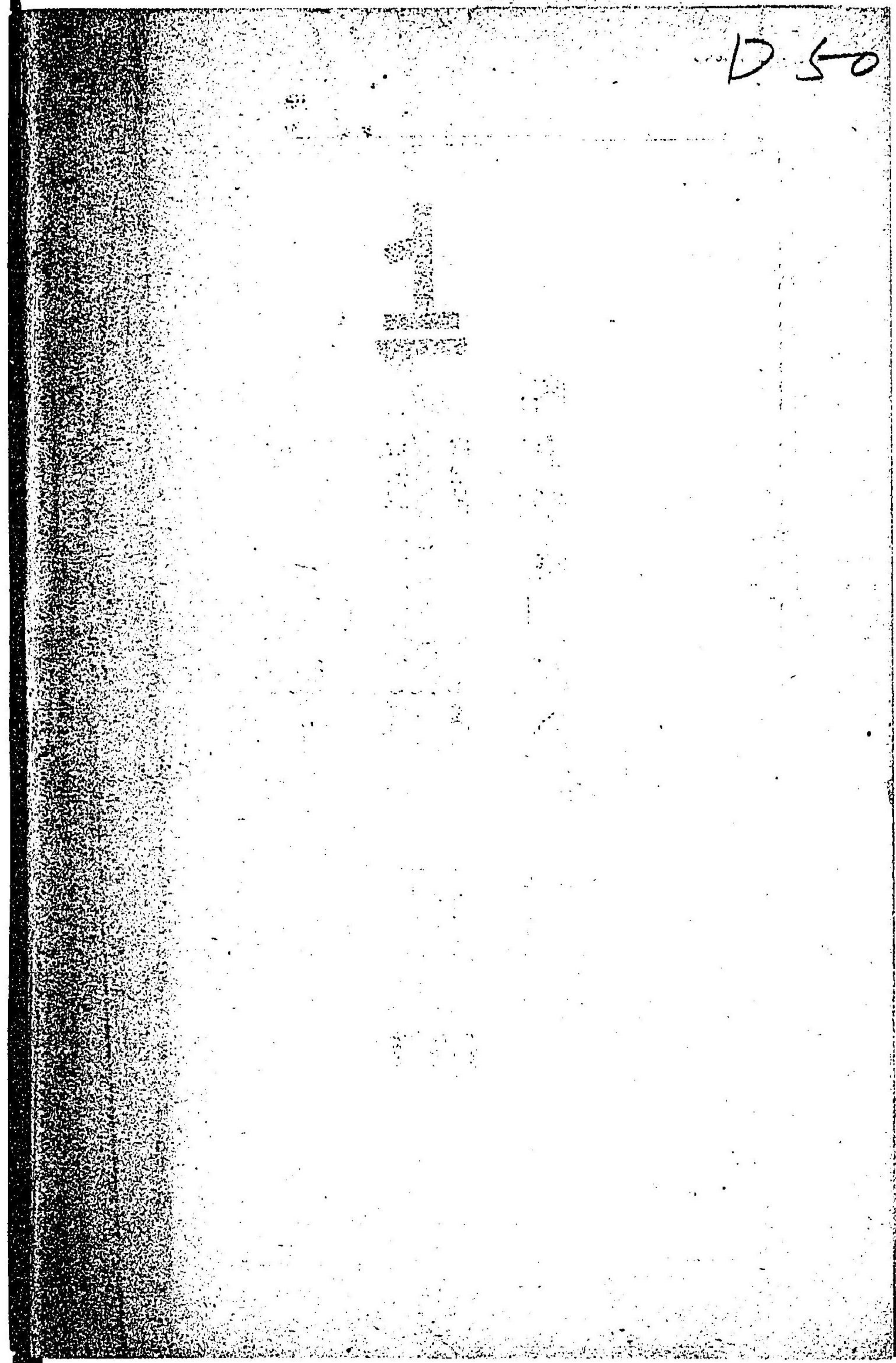
杉本書店

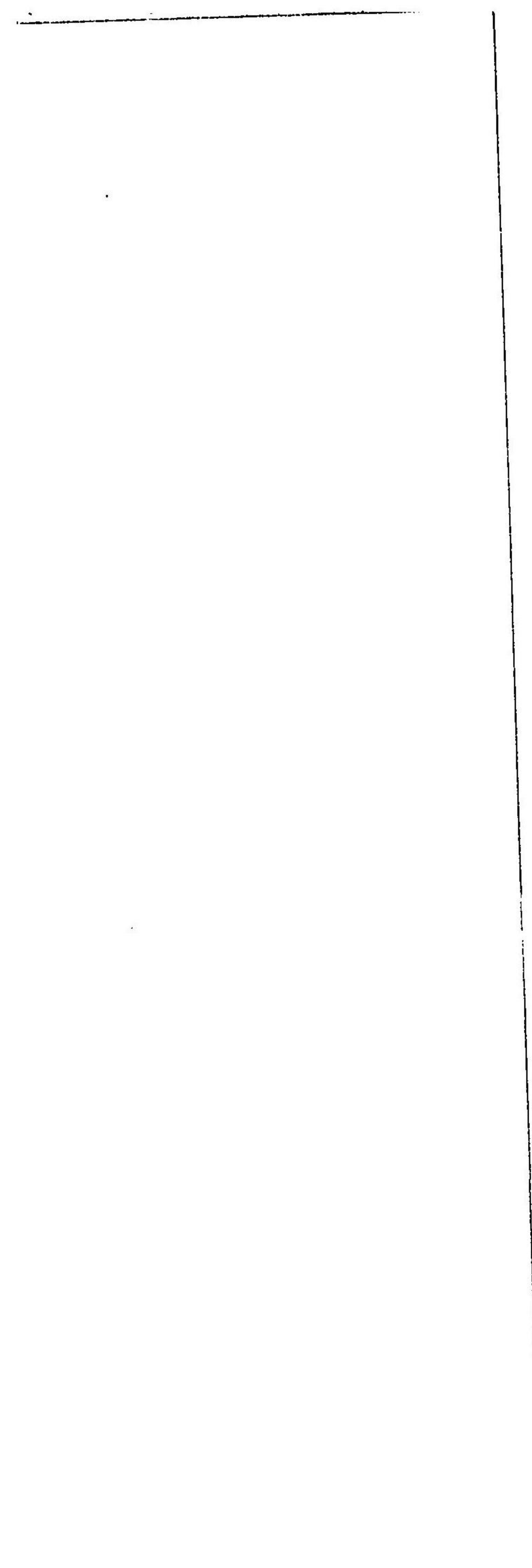
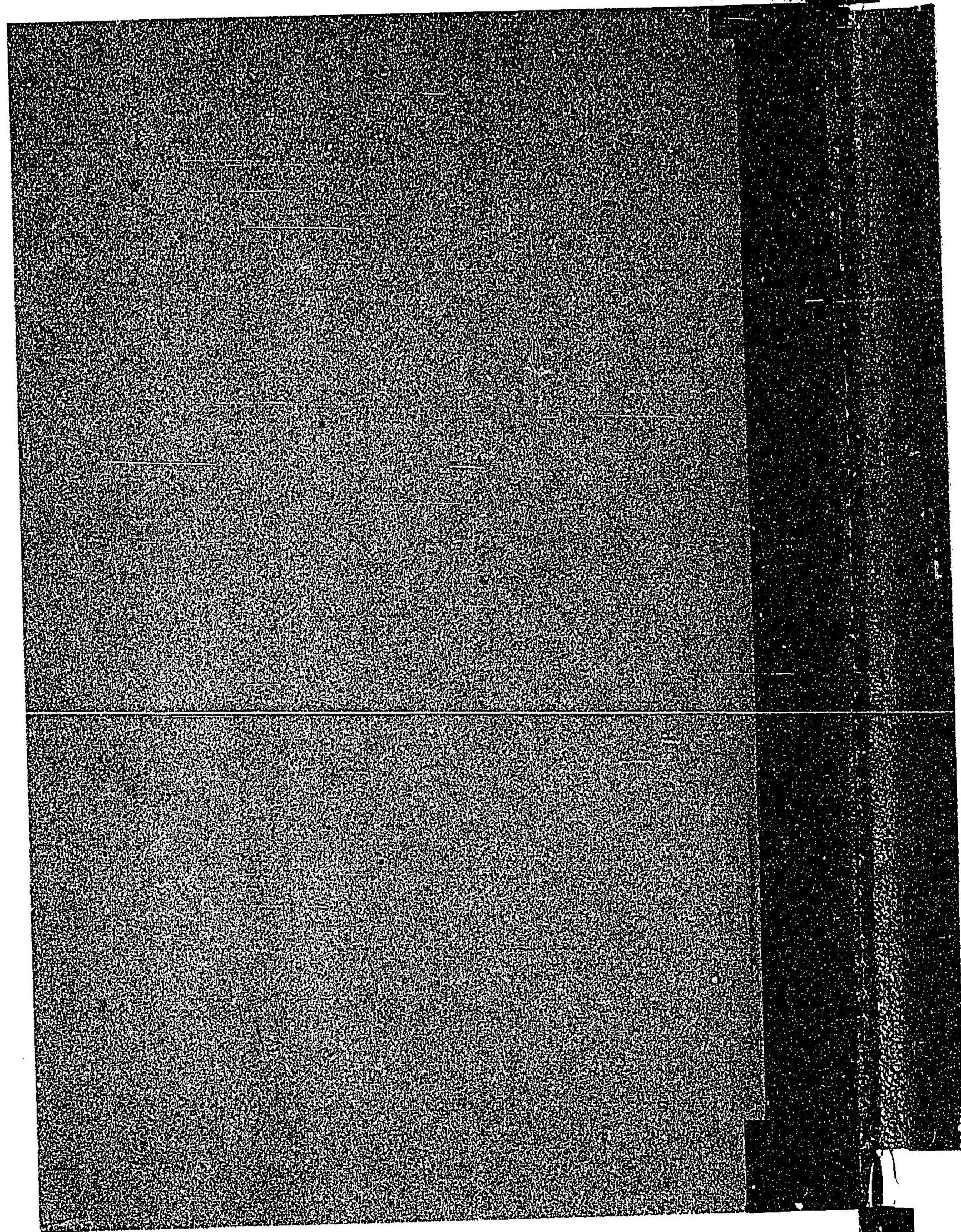
鈴鹿一瓢軒

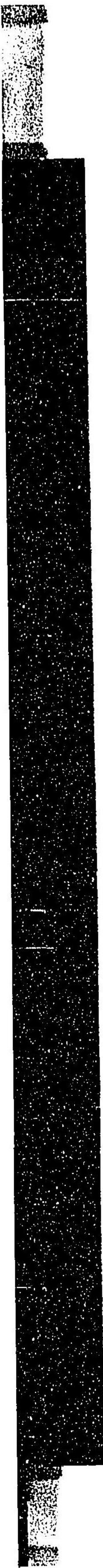
其他各書林

D 50

1







トラホーム一席話

井上喜久治

国立国会図書館

060106-000-7

特47-856

トラホーム一席話

井上 喜久治/著

M44

CBJ-0179

